



We are such stuff
As dreams are made on,
and our little life
Is rounded with a sleep.

研究テーマ

「比較演劇研究者」であると自称しています。時代を映す鏡としての演劇と異文化交流の研究は、通訳や翻訳の世界とも結びつきます。

研究の道へ進んだきっかけ

一度映画配給会社に就職しましたが、翻訳者・通訳者としての自信を得るためには古典を勉強しなおした方が良くと考え、学生に戻り、通訳案内士や英会話講師をしながら大学院の文学研究科に進んだことがきっかけです。その後、「勉強」はエンドレスになってしまいました。

研究者になってよかったと思うこと

自分の興味のあることを、趣味ではなく、研究分野だと言うことが許される点でしょうか(例え、ためらいながらも)。また、海外の研究者との交流だけでなく、教育者として若い世代と触れ合うことによって、新しい視点が得られるのも、醍醐味の一つだと思います。

座右の銘

We are such stuff
As dreams are made on, and our little life
Is rounded with a sleep.

研究紹介

大学時代はシェイクスピア研究会に所属して、原語上演に出演する傍ら、野田秀樹などの現代劇の英訳に挑戦したり、アイルランド、英国、米国の演劇を研究したりしていましたが、その後「アジアのシェイクスピア受容」を研究テーマにすることによって、能楽や沖縄演劇とも関わるようになりました。異文化を理解するには、まず自国の文化を理解する必要があります。現在は、密着型取材をした上で公演の記録映像に字幕翻訳をつけて理論化する方法を模索し、海外の学会で発信を続けています。



現在の研究テーマと一番関連深い「Shakespeare and Asia」



沖縄の女性劇団「うない」の主要メンバーと撮影

私たちは、夢を織りなす糸のようなもの。ささやかなその人生は、眠りによって締めくくられる『テンペスト』第4幕第1場より

研究とプライベートの両立で工夫していること

朝は夜明け前に起き、一時間目の授業の前の時間をフルに活用することを心がけていますが、必ずしもうまくいっているわけではありません。

未来の研究者へ一言

演劇系の研究では、生活との線引きをすることが難しい面があると思います。周りの人の理解を得ることが大切です。

鈴木 雅恵

SUZUKI Masae

京都産業大学 外国語学部 教授
専門分野：比較演劇

略歴

東京女子大学文理学部を卒業後、(株)東北新社入社。その後、早稲田大学文学研究科博士課程前期終了。米国フィリップス大学日本校英米文学部助教授等を経て、平成12年より京都産業大学に奉職。現在、ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校大学院芸術学演劇専攻Ph.D. candidate。

最近の主な論文・評釈

- 共著：『新作能・マクベス』(泉紀子、辰巳萬次郎、野村萬斎等、10名との共著)平成27年、泉書院
- 共著：『Performing Shakespeare in Japan』平成13年、Cambridge University Press
- 論文：“Shakespeare and Class: Othello in Mainland Japan and Okinawa” (Lingui Yang編『Shakespeare and Asia: Shakespeare Yearbook 17』, pp.321-336)平成21年、Edwin Mellen Press
- 論文：“Shakespeare, Noh, Kyogen, and Okinawan Shibai” (Shakespeare, Hollywood, Asia and Cyberspace, pp.152-165)、平成21年、Purdue University Press
- 論文：「近代沖縄とシェイクスピア受容」(西成彦・原毅彦編『複数の沖縄—ディアスポラから希望へ—』収録)、平成15年、人文書院
- 翻訳：「歌舞伎を救ったのは誰か?アメリカ占領軍により歌舞伎検閲の実態」(ジェームズ・ブランドン原稿からの翻訳)『演劇学論集42号 特集 演劇と記憶』収録、平成16年、日本演劇学会 等



BEST SHOT

